

P1-2

2000-2014年における日本の肺がん患者の5年純生存率の推移: CONCORD-3研究

尾瀬 功¹, Melissa Matz², 杉山 裕美³, 大木 いずみ⁴, 柴田 亜希子⁵, 中田 佳世⁶, 梶原(斎藤) 麻里⁶, 伊藤 秀美¹, 松坂 方士⁷, 西尾 麻里沙⁸, 渡邊 要⁹, 田中 里奈⁷, ガテリエ ローリン⁸, 吉田 功¹⁰, 寺本 典弘¹⁰, 山下 夏美¹⁰, 山崎 泰治¹¹, 茂木 文孝¹², 黒澤 克樹¹³, 根本 雄二¹⁴, 成松 宏人⁹, 金村 政輝¹⁵, 宮代 勲⁶, 森 大輔¹⁶, 藤田 伸¹⁷, 松田 智大⁸, Michel P Coleman², Claudia Allemani², Veronica Di Carlo², Japanese CONCORD-3 Working Group

1. 愛知県がんセンター, 2. London School of Hygiene and Tropical Medicine, 3. 放射線影響研究所, 4. 埼玉県立大学, 5. 山形県立中央病院, 6. 大阪国際がんセンター, 7. 弘前大学大学院医学研究科, 8. 国立がん研究センター, 9. 神奈川県立がんセンター臨床研究所, 10. 四国がんセンター, 11. 福井県立病院, 12. 群馬県健康づくり財団, 13. 茨城県庁, 14. 茨城県薬剤師会検査センター, 15. 宮城県立がんセンター研究所, 16. 佐賀県医療センター好生館, 17. 栃木県立がんセンター

背景

- がん対策の立案・がん医療の評価のためにはがん罹患・がん死亡・がん生存率の把握が必要である。
- がんの罹患率・死亡率は以前から把握されていた。
- がん生存率の国・地域による差は知られていたが、統一した比較はなかった。
- がんによる疾病負担が増加しており、予防だけでなく治療成績の向上が必要。
- London School of Hygiene and Tropical Medicine (LSHTM) Cancer Survival Group主導でCONCORD研究が開始された。
- 70か国以上・322地域がん登録から2000-2014年のがん罹患情報が収集された。

考察・結論

組織型による生存率改善の違い

小細胞肺がんは生存率が改善していない。治療の進歩が限定的であった可能性。
非小細胞肺がんは5.6%の改善。
診断技術の改善による小型腫瘍の発見率向上。
胸腔鏡・縮小手術による合併症の改善。
新規治療薬の導入による予後改善。

女性のほうが生存率の改善が大きい

非喫煙女性での小型・非充実性腫瘍の発見。
男性の高い喫煙率による純生存率の過小評価。

診断の進歩による影響

限局期・遠隔転移の肺がん割合が増加。
より小さく予後の良い肺がんの発見、小さな遠隔転移の発見。
診断機器の進歩によるStage migrationの影響の考慮が必要。

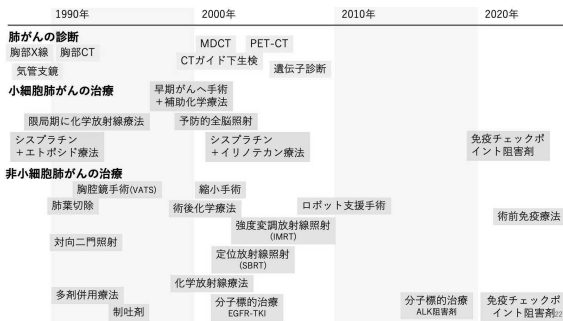
本研究の強み

日本人口の約40%をカバーする16のがん登録データを利用。
日本人集団を代表する生存率の推定が可能。

本研究の限界

16がん登録のデータ提供期間の違い。
病期データは3つのがん登録のみ提出。

次期CONCORD-4研究ではより広く詳細なデータを用いることが望まれる



肺がん診断・治療の進歩

2000-2014年は診断の進歩によって小さい腫瘍の発見が可能になった。

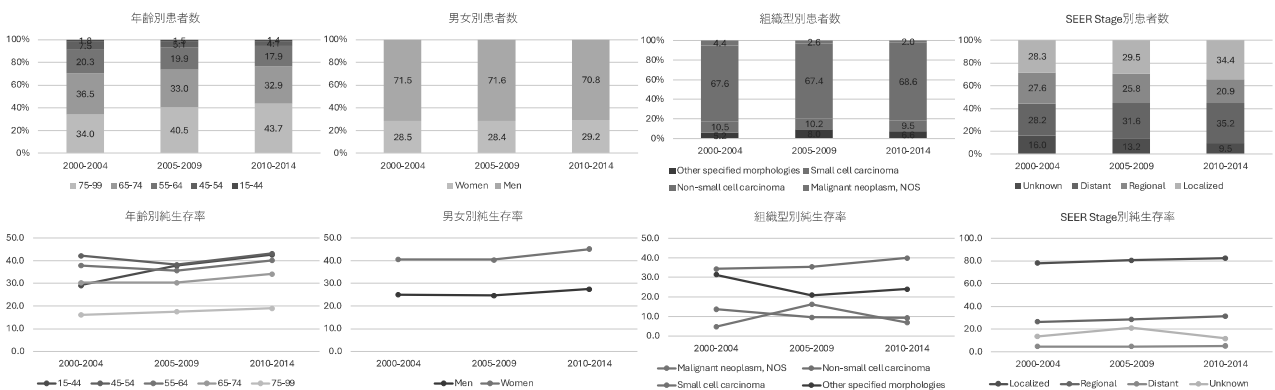
小細胞肺がんは2000年以降治療の進歩が限定的であった。

非小細胞肺がんは手術・放射線・化学療法とも様々な進歩が見られた。

目的

- CONCORD-3で収集した日本のデータをまとめ、部位別に詳細な検討及び解説を行う。
- Japanese Journal of Clinical Oncology (JJCO)のsupplementとしてまとめて出版する。
- 日本のがん対策・がん医療評価のための包括的な資料となることが期待される。

結果



結果まとめ

- 高齢者割合とDistant, Localizedの割合が増えたが、男女比、組織型割合は変化しなかった。
- 生存率は全体としてほぼ横ばいだが、若年・女性・非小細胞肺がんでは改善が見られた。

謝辞

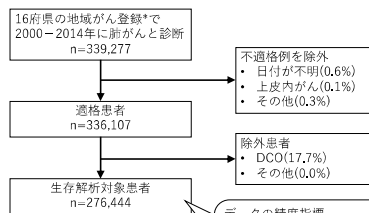
研究にご協力いただいたがん登録とその関係者の皆様
愛知県、秋田県、愛媛県、福井県、群馬県、広島県、兵庫県、茨城県、神奈川県、宮城県、新潟県、大阪府、佐賀県、栃木県、山形県、山梨県

方法

対象患者

*参加がん登録

- 愛知 (2003-2013)
- 秋田 (2010-2014)
- 愛媛 (2007-2013)
- 福井 (2003-2009)
- 群馬 (2003-2012)
- 広島 (2004-2008)
- 兵庫 (2007-2012)
- 茨城 (2006-2012)
- 神奈川 (2000-2013)
- 宮城 (2000-2010)
- 新潟 (2000-2013)
- 大阪 (2000-2008)
- 佐賀 (2006-2013)
- 栃木 (2006-2013)
- 山形 (2003-2013)
- 山梨 (2008-2012)



データの精度指標
MV割合 87.6%
非特異的形態コード 13.1%
追跡不能 0.0%
打ち切り 0.9%

統計解析

- 高齢者での競合リスクの考慮のため、unbiased Pohar Perme推定量を用いて5年純生存率を推定した。
- 2010-2014年診断患者の5年純生存率推定にperiod approachを使用した。
- 年齢階級別・性別・年別の死亡数と人口から各府県の生命表を作成した。
- 年齢の標準化にはICSS group 1の重み付けを用いた。
- 解析はSTATAを利用し、純生存率の推定はstnsコマンドを用いた。

COI開示

当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。